

Structure Kansai

No.166 2025.7

JSCA関西ホームページに会員皆様の意見、質問に答えるコーナーを開設しております。ご活用下さい。

2025年度(一社)日本構造技術者協会関西支部総会 5月21日開催



島野支部長挨拶



構造デザイン発表会



新副支部長就任紹介(懇親会)



関西支部 支部長

「支部活動の新たな展開」
(株)竹中工務店
島野 幸弘



関西支部 副支部長

「是非ご参加ください」
(株)日本設計
上森 博



関西支部 副支部長

「就任のご挨拶」
(株)北條建築構造研究所
橋本 宗明

引き続き関西支部の支部長を務めさせていただくことになりました。2年前の就任時に掲げた「世代と会社の枠を超えて、JSCAで仲間と楽しむ」という方針のもと、「JSCA関西U-45Next Generation」「脱炭素推進委員会」「都市木造分科会」を設置し、活動の活性化に取り組んできました。これらの活動を継続するとともに、大阪・関西万博の開幕を機に、「万博関連施設の構造設計講演会」などを通じて全国への情報発信を強化したいと考えています。また、2026年度には本部主催の「JSCA構造デザイン発表会」を関西支部で開催します。会員の皆様に技術研鑽や本部との交流の場を提供するため、特別委員会を設置してその準備を始める予定です。さらに、関西支部内に拠点を持つ賛助会員の皆様との相互発展を目指し、支部賛助会員制度の設置準備も進めていきます。

例年の活動に加え、これらの新たな取り組みを通じて支部活動をさらに活性化し、中長期的に健全な活動を継続できる体制を整えていきたいと考えています。引き続き、皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

このたびJSCA関西支部の副支部長を務めることになりました上森です。

私のJSCA関西支部での履歴は2007年にJSCA入会后、2009年～2018年_大震研(WG4)および大震研委員会(WG3)、2020年～現在_PC・工業化分科会、また2014年以降は支部幹事および事業委員(ここ4年間は事業委員長)として会員間の懇親、交流を念頭に構造技術者にとって有意義で魅力ある企画を実施すべく活動してまいりました。

この活動を通し、委員会等に参加してはじめて得られるものがあると感じています。関西支部の数ある委員会、分科会のどこに参加するかは迷うところですが、情報取得のみならず、幅広い世代・所属の構造技術者とのつながりを実感することができます。これが現業におけるモチベーション向上や新たな発想・アプローチにつながれば・・・OK、と思うのですが会員の皆さま、いかがでしょう。

支部総会にて島野支部長より今後2年の活動方針が示されました。大阪・関西に注目が集まる中、皆さまと一緒に関西支部を盛り上げることができればと考えております。是非ご参加ください。

この度、副支部長を務めさせていただくことになりました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私は、JSCAに入会して21年になります。この間、関西支部において、木構造分科会、RC分科会、広報委員会で活動してきました。昨年からは、新たに設けられた脱炭素推進委員会でも活動をしています。

島野支部長が掲げる活動方針のもと、これまでの2年間、青年部会の立ち上げやJKサロンなどによって、会員同士の交流が活発になってきているように感じています。来年は、本部主催の構造デザイン発表会が関西支部で開催することが決まりました。交流の場がさらに拡大されることを期待しています。そのためにも、これからの2年間、さらに交流が盛んになるよう支部活動をしっかりサポートしていききたいと思っております。

会員の皆様にとって支部活動が、魅力のある有意義なものとなりますよう、微力ではございますが精一杯務めてまいりますので、ご支援のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

脱炭素推進委員会 第1回企画

『脱炭素について学ぶ会』の報告



脱炭素推進委員会委員
株式会社鴻池組
安野 郷

2025年3月5日開催のJSCA関西・脱炭素推進委員会第1回企画「脱炭素について学ぶ会」について報告する。

第1回企画には会場参加15名、WEB聴講参加43名の会員に参加いただいた。

1.はじめに

脱炭素推進委員会・前川委員長（竹中工務店）より、『JSCA関西では「脱炭素社会の実現に向けた構造技術者の社会貢献を推進すべく、会員の脱炭素リテラシーの強化をするとともに、会員の技術力向上を図る」ことを目的として、2024年6月に特別委員会として「脱炭素推進委員会」を設立した。会員の皆さまが「脱炭素」という言葉を身近に感じ、脱炭素に取り組むきっかけとなることを狙いとして「脱炭素について学ぶ会」を企画した』と開会の挨拶があった。

2.「脱炭素に関する世界の動向」

橋本委員（北條建築構造研究所）より、「脱炭素に関する世界の動向」として、世界の温度上昇予測やそれに伴う経済的損失、カーボンニュートラルに対する世界規模の取組としてCOP（Conference of the Parties）やパリ協定の説明、G7各国のCO₂排出量や現状のカーボンニュートラル進捗状況などを説明、日本は順調に進んでいるが他国は順調に進んでいない現状などの説明があった。アメリカ・トランプ大統領が就任、パリ協定を離脱、世界第2位の温室効果ガス排出国でもあり、地球温暖化対策の後退が懸念されることなどの説明があった。



3.「脱炭素に関する日本の動向」

岡田委員（日建設計）より、「脱炭素に関する日本の動向」として、菅首相による2050年カーボンニュートラル宣言及び環境省の脱炭素ポータルを説明、経済産業省のGX関連の施策の話から経済面でのカーボンニュートラルの必要性を説明、建設業のCO₂排出量や、日本建設業連合会や日本建築学会及び各企業の動向説明があった。

TCFDやSBT、RE100などクライアントサイドの動向について説明、カーボンニュートラルへの取組みとしてスコープ1～3の説明があり、構造技術者に対して求められる役割や貢献できる余地について説明があった。



4.「脱炭素に関するディスカッション」

引き続き、会場参加の方とディスカッションを行い、以下のような議論を交わした。

○2024年に1.5℃上昇しているが、12年かかる予定のところ1年で上昇しまったということか。

→想定よりも早いペースで気温上昇が生じているかもしれない。

○CO₂を減らしたら本当に温暖化がとまるのか。科学的根拠があるのか。

→正直わからない。自然的要因だけならフラット（気温は上昇しない）なのに、産業革命以降気温があがっている理由は、炭素を燃やしていることが原因ではないかと考える。

○構造設計で通常やっている小資源で最大のパフォーマンスを出すということと、脱炭素の方向は同じではないか。やっていくこととしては小資源で設計する、長寿命化する、CO₂の少ない材料を使う、木を使うということを進めていくことになるだろう。ただ、CO₂を吸収してくれる木を伐採して使うのは果たして正しいのか。昔は、リユースすることが前提で木造を使っていた。その延長でこ

れからも木造を設計していくべきでは。

→「木を伐採して使うのは果たして正しいのか」については次回以降の話題にする。先取りして回答すると、木はある程度成長すると、CO₂をあまり吸収しなくなるので、樹齢が高い木を伐採して新しい木を植えれば、また吸収量が増えるという効果を得る必要がある。よって、「森林サイクル」という言葉が使われることが多い。

○説明いただいたグラフのCO₂排出量とCO₂吸収量の差をみると気が遠くなる。実現可能なのか。

→現在実用化されている技術だけではカーボンニュートラルは達成できないと言われている。イノベーション、今までにない技術がなければ実現不可である。

参加者から以下のような感想があった。

○いろいろ勉強になった。

○実務で意識することは少ないが、2050年はまだまだ現役なので考えていかなければならないと感じた。

○我々が地道にできることとして改修工事があると思う。

○小資源の設計など、今までやっていることを脱炭素としてアピールすればよい。

○木材伐採と木の生育のバランス、木材伐採地域と木材使用場所の距離なども影響があることを感じた。

5.JSCA関西サロン「脱炭素について知りたい！エンジニアの集い」

13名のメンバーに参加いただき、脱炭素についての情報交流を図った。



<第1回企画資料の閲覧はこちら>



資料1 (世界の動向)



資料2 (日本の動向)



第27回若手技術者 育成講座

株式会社
北條建築構造研究所
山下 真輝

令和7年2月26日、大阪科学技術センターにて開催された「JSCA第27回若手技術者育成講座（設計編）」と同年3月7日に開催された「JSCA第27回若手技術者育成講座（現場編）」に参加させて頂きました。

設計編では、受講者4～5人1組のグループで、あらかじめ決められた地盤条件に延べ面積2,000m²以下の店舗の設計を、昨今の課題でもある脱炭素・カーボンニュートラルの実現に向けた取り組みを盛り込み、最後に質疑応答を含め15分程度で発表するというものでした。

初めに計画の条件や発表方法などの説明の後、グループワークが始まり、施主や意匠の立場となり敷地や、建物計画を考えました。



写真1 グループワーク風景

私たちのグループでは、京都の地下水を利用したクラフトビールを販売する店舗で「醸造過程を楽しむ」をコンセプトとして楽しみながらクラフトビールを味わえる空間を持つ建物を考えました。計画を練る中でレストランや醸造所の使用性に配慮して無柱空間にしたり、2階から1階の醸造所を見学できるようにするため、吹抜けを配置しました。また2階のレストランの採光確保や建物全体ボリュームに配慮し

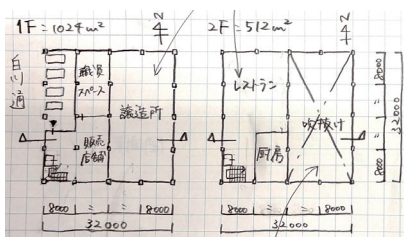


図1 平面図

て、屋根勾配に変化を持たせるため、ハイサイドライトを配置し、脱炭素計画として、屋根に太陽光を設置しました。その後構造計画として、経済性に配慮し、鉄骨造の各方向ブレース付きラーメン架構とし、基礎形式は独立基礎としました。この計画の中で議論になったのが、ブレース配置で、吹抜けを要していることや眺望に配慮しなければいけない等の条件から、最適配置を求めていきました。

ある程度計画が決まったところで各々に割り当てられた箇所の構造計算と、発表資料（伏・軸・リスト）を作成する段階に進みました。早めに計画を詰めたと思いましたが、計算や発表資料に時間がかかり、駆け足で作成していきました。そんな中でもグループ内で協力したり、相談したりとより良いものを作成しようと一致団結してできたと思います。

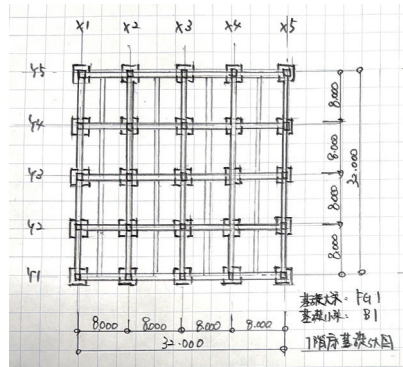


図2 1階床基礎伏図

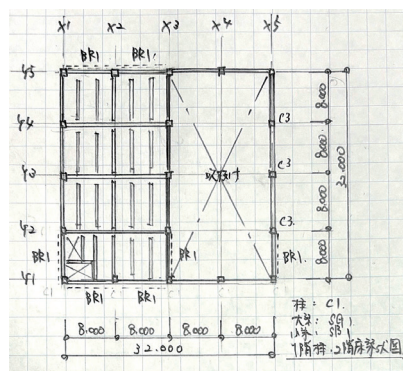


図3 1階柱・2階床梁伏図

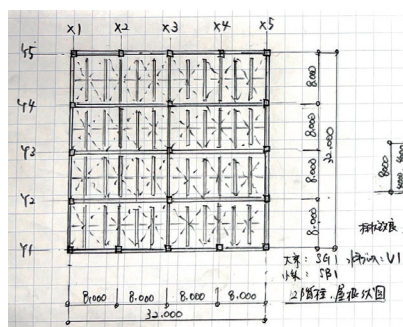


図4 2階柱・屋根伏図

最後に各グループの成果発表を行いました。他のグループでは、敷地選定で土圧がかかる土地を選ぶところや、トラス形状の大スパンの体育館を要する施設、吹抜けを要するログハウスなど様々でした。質疑では、力の流れや建物のバランス（偏心率）、変位など、各々が重要としていることを指摘することで、様々な角度から同世代の構造設計者の考え方を聞く機会があり、非常に有意義な時間となり、私を含め同世代のレベルアップにつながったと思いました。

次に別日に行われた現場編についてですが、大阪市内に建設中の高層棟と低層棟の2棟で構成する建物を見学させて頂きました。構造的な特徴としては、1本の柱に2つの免震装置を配置することで免震装置に加わる面圧を分散させていることや、体育館のロングスパンを実現するために、斜め柱やロングスパン梁の端部ピン接合、柱梁接合部が偏心接合といった工夫をしており、また地下既存躯体を用いた直接基礎など多くの特徴がありました。私は一つの建物に対してこれほど多くの技術力を含んでいることに驚いたことと、高層建物に用いる免震装置を初めて見学させていただき、貴重な経験となりました。



写真2 現場見学風景

今回の講座を受講して、同世代の構造設計に対する考え方を知ることができ、改めて自分の知識不足や、経験不足を痛感しました。短い時間で、意匠的な工夫や、構造的な工夫を考慮し、まだまだ未熟な部分がある中で、思考錯誤してグループ内でまとめた経験は今後の若手活動のきっかけになると信じています。

おわりに事業委員長である日本設計の上森氏をはじめ、最初から最後まで温かい目で見守っていただき、ご指導いただきましたインストラクターの諸先輩方に、この場をお借りしてお礼申し上げます。



大阪・関西万博
「日本館」

株式会社
日建設計
江坂 佳賢

1. 計画概要

大阪・関西万博日本館はホスト国である日本政府としてプレゼンテーションを行う拠点施設である。建築本体工事の発注者は国土交通省近畿地方整備局であり、建築デザイン・建築設計及び展示内装設計（基本設計・実施設計）・プロジェクトマネジメント・工事監理を日建設計が行い、建築施工は清水建設が行った。地上2階建てで敷地面積は約12,950㎡、延床面積は約11,000㎡であり、主架構を鉄骨造とし、耐震要素としてCLTを採用した建物である。（写真①、②）

日本館のコンセプト「いのちと、いのちの、あいだに」に基づき、最大約2.8m×12mのCLTを円環状に建ち並べることで、「いのちの循環」を建物として表現した。使用されるCLTの一部は会期後解体・返却され、リユースされることで資材の循環が成されるスキームである。また展示計画と建築設計を一体的に進めることにより、展示と建築の融合を図り、様々な“展示環境”を提供し、実体験として展示のストーリーを五感で感じる事が出来るパビリオンを目指した。



写真1 外観写真

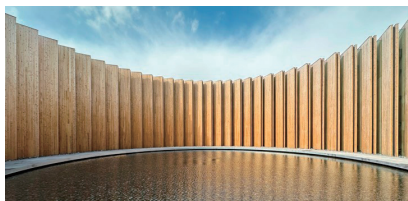


写真2 内観写真

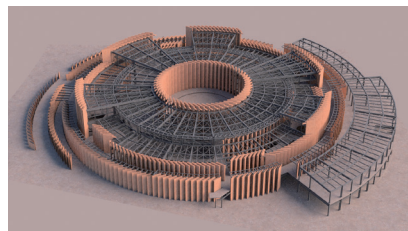


図1 CLTと鉄骨架構のパス

2. 構造設計の特徴

構造種別は、フレキシビリティの高い展示空間の実現と、CLTを象徴的に表現することを両立させるため、主架構を鉄骨造とし、耐震要素としてCLTを現して用いたメリハリのある架構を形成した。鉄骨造の柱梁フレームを、2枚のCLTで挟み込んだものを一つのユニットとし、このユニットを連続的に並べることで建物を構成した。鉄骨とCLTの接合部は解体性・後利用性に配慮し、ボルト・ビスを採用しており、両者を緊結することで本ユニットが耐震壁として機能する。CLT耐震壁としての耐力・靱性能は載荷試験によって確認した。CLT耐震壁は、平面的な外周・中間・内周の各円周上に雁行型に配列し、雁行方向は外周・中間・内周上において、相互に反転させている。これにより、あらゆる方向からの外力・振動に対してCLTが耐震要素として機能するバランスの良い耐震架構を実現した。このCLT耐震壁は、①展示空間の領域区分機能、②建築物の内外壁の機能、そして③耐震要素という複数の役割を担っており、展示・意匠・構造が一体となる計画を果たした。（図1・2）

3. 地盤の概要

本敷地では、その東西で埋立工事の施工時期に違いがあり、西側では2022年4月に埋立が完了し（以降、「新埋立地」）、東側では2007年に埋立が完了している（以降、「旧埋立地」）。図3に示すように本建物は新埋立地と旧埋立地に跨る位置に配置されている。建築工事中

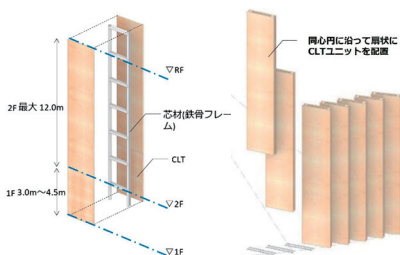


図2 CLT外貼り架構システム

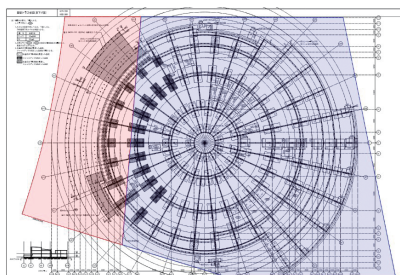


図3 新旧埋立地範囲図

工から万博閉幕までの2年間の想定沈下量を比較すると、新旧埋立地間の沈下差の予測値が約30cmに及び、本建物の基礎計画では沈下対策、とりわけ不同沈下に対する対策が重要課題となった。

4. 基礎計画の工夫

基礎は、建物重量を基礎部排土重量以下とさせた直接基礎（排土バランス基礎）を採用し、新規の上載荷重を作用させないことで圧密沈下の抑制に配慮した。また、建物の軽量化および解体性への配慮とともに柱軸力の不均一性や沈下性状が一樣ではない地盤特性を考慮し、基礎梁には鉄骨を用いた。排土のために掘削した空間を利用し、高さ1.8mの鉄骨トラスを基礎梁として放射方向・円周方向に掛けることで剛性が高く、変形追従性能にも優れる基礎を構築した。（写真③）これにより、不同沈下による基礎の損傷を防止するとともに、沈下差が生じ始めた際には剛強な鉄骨トラスにより応力再分配がなされることで不同沈下の進行を抑制し、上部構造への影響を軽減することを目指した。さらに、将来的な不同沈下に備えて、鉄骨トラス基礎をジャッキアップすることができると考えた。

5. 施工段階における沈下対策

施工段階において、基礎トラスに設置した水盛式沈下計による沈下計測を実施し、計測結果に基づき、基礎支点位置に強制変位を与えた解析検証を並行して実施した。計測沈下量の管理と沈下量に伴う解析検証により、将来に生じうる不同沈下に対してジャッキアップにより備えることができたと考える。

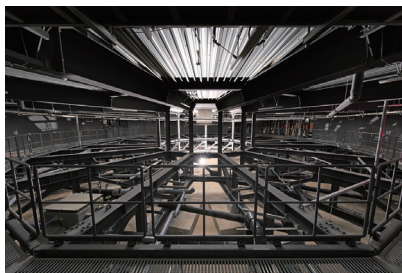


写真3 鉄骨トラスによる基礎梁

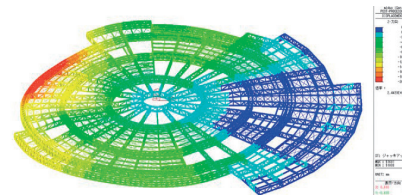


図5 基礎トラス鉄骨変形図

■JSCA関西支部2024年度事業報告書

(2024年4月～2025年3月)

1.2024年度支部総会	0516大阪科学技術センター(ウェビナー併用によるハイブリッド開催)235名(対面55名、委任状180名)
2.支部幹事会	0425, 1128
3.運営会議	0425, 0523, 0627, 0725, 0822, 0926, 1017, 1128, 1226, 0123, 0227, 0327
4.事業委員会	0408, 0513, 0610, 0708, 0805, 0909, 1007, 1111, 1209, 0107, 0217, 0310
5.技術委員会	0423, 0625, 0827, 1029, 1224, 0225
6.広報委員会	0619, 0918, 1220, 0319
7.脱炭素推進委員会	0618, 0718, 0806, 0910, 1015, 1112, 1217, 0115, 0212, 0304
8.耐震診断・補強判定委員会関西西部会	1022, 1218, 0219, 0319
9.木造住宅レビュー委員会	0416, 0520, 0618, 0723, 0826, 0918, 1018, 1126, 1224, 0127, 0213, 0313
10.構造レビュー委員会	開催なし
11.研究会・記念事業	・定例研究会 0516 JSCA関西構造デザイン発表会2024 大阪科学技術センター(ウェビナー併用によるハイブリッド開催)参加者 329名(会場132名、Web参加197名) ・新年研究会 0109 JSCA関西支部新年研究会 大阪科学技術センター(ウェビナー併用によるハイブリッド開催) 第一部:2024年度JSCA賞受賞者講演、 第二部:パネルディスカッション「JSCA賞受賞構造設計者」と考える脱炭素社会実現への一手」 参加者 180名(会場108名、Web参加72名) ・記念事業 0118 阪神・淡路大震災30年企画「-記憶を未来へ、教訓を減災に-」グランフロント大阪うめきたSHIPホール参加者252名(※内パネルディスカッション参加者約160名)
12.現場見学会	1002 グラングリーン大阪(JSCA見学会in大阪) 参加者45名 1003 2025年大阪・関西万博(JSCA見学会in大阪) 参加者47名 1024 大阪大学(吹田)感染症教育研究拠点現場見学会 参加者23名
13.研修会	1115～1116 JSCA関西支部2024年度研修会 参加者41名 「平和都市広島、建築を巡り想いを馳せる」-広島市～宮島-
14.支部報	Structure Kansai No.161,162,163,164発行
15.技術委員会各分科会(※下線付きは拡大分科会を示す。)	・地盤系分科会 0626, 0709, 1025, 1211, 0207 ・RC分科会 0509, 0904, 1122, 0219 ・金属系分科会 0630, 0809, 1205, 0304 ・情報システム分科会 0530, 0905, 1206, 0306 ・構造計画分科会 0731, 1203, 0319 ・耐震設計分科会 0521, 0718, 1023, 1128 ・PC・工業化分科会 0509, 0731, 1112, 0221 ・木構造分科会 0418, 0709, 1008, 0114 ・法制分科会 0522, 0911, 1128, 0219 ・都市木造分科会 0416, 0709, 1013, 0114
16.事務局会	0510, 0612, 0717, 0919, 1018, 1119, 1218, 0127, 0310
17.サテライト活動	・奈良会 開催なし ・京滋会 開催なし ・兵庫会 0722「神戸市安心安全ネットワーク情報交流会」へ出席
18.その他活動	・青年部会準備WG 0423, 0520 以降「JSCA関西U-45 Next Generation」として活動 ・JSCA関西U-45 Next Generation 0617, 0701, 0807, 0911, 1125, 1210, 0114, 0225 ・JSCA関西U-45 Next Generation 0124 第一回全体企画「若手の頃を振り返って」参加者42名 ・阪神・淡路大震災30年企画WG 0424, 0604, 0625, 0723, 0827, 0924, 1126, 1224, 0225 ・脱炭素推進委員会企画 0305「JSCA関西 脱炭素について学ぶ会」参加者 58名(会場15名、Web参加43名) ・JSCA関西サロン 0628(16名), 0726(29名), 0927(11名), 1129(8名), 0305(13名)
19.講習会	・限界耐力計算による木造耐震設計法の実務講習会

0411(17名), 0613(16名), 0711(19名), 0912(15名), 1010(19名), 1114(15名), 1212(17名), 0213(15名), 0313(14名) 参加者計147名	
・若手技術者育成講座設計編	0226 場所:大阪科学技術センター 参加者 23名
・若手技術者育成講座現場編	0307 場所:(仮称)本町4丁目プロジェクト 参加者 20名

20.親睦会

・RC分科会・PC工業化分科会合同拡大分科会 意見交換会	0509	参加者 39名
・支部総会懇親会	0516	参加者 110名
・見学会in大阪 懇親会	1002	参加者 55名
・研修会懇親会	1115	参加者 45名
・賀詞交歓会	0109	参加者 120名
・都市木造拡大分科会 意見交換会	0114	参加者 16名
・U45NextGeneration企画 懇親会	0124	参加者 38名

21.研究受託

・大阪建築物震災対策推進協議会 限界耐力計算レビュー委託業務(木造住宅3物件)	
---	--

21.他団体への委員・講師の派遣

委員派遣(○印は兵庫会から選任)

・大阪市「大阪市耐震改修支援機構」	石田健吾, 小倉正恒, 島野幸弘, 山浦晋弘
・京都市「京町家耐震診断レビュー委員会」	櫻原健一, 田村佳英
・神戸市「建築物安全安心推進協議会」	○石本泰宏
・日本建築総合試験所「建築構造性能評価委員会」	近藤一雄, 田代靖彦, 山浦晋弘
・日本建築総合試験所「既存建築物耐震診断等判定委員会」	嶋崎敦志
・日本建築総合試験所「判定助言委員会」	嘉村武浩, 島野幸弘, 宮崎英也, 安野 郷, 吉田 聡
・日本建築総合試験所「コンクリート工実務研修委員会」	上森 博
・大阪府建築士会「専攻建築士審査評議会」	島野幸弘
・大阪府建築士会「CPDプログラム認定評議会」	横田友行
・京都府建築士会「専攻建築士審査評議会」	中森康正
・兵庫県建築士会「専攻建築士審査評議会」	○山田正人
・大阪工業大学「専門委員会」	横田友行
講師派遣	
・大阪建築物震災対策推進協議会「被災建築物の応急危険度判定講習会」	福本義之
・大阪府建築士会「既存木造住宅の耐震診断・改修講習会(限界耐力計算)」	小倉正恒, 山浦晋弘
・大阪府建築士会「既存木造住宅の耐震診断・改修講習会(一般診断法)」	横田友行, 石田健吾

23.関連団体との交流

・在阪建築16団体事務局会議	0911, 0317
・在阪建築15団体午餐会	1024
・在阪建築16団体新年交礼会	0106

■JSCA関西支部2025年度事業計画書

(2025年4月～2026年3月)

1.2025年度支部総会	0521 建設交流館(ウェビナー併用によるハイブリッド開催)
2.支部幹事会	0425, 11月頃 場所:柴田東急ビル4階 JSCA関西事務局 Web会議併用
3.運営会議	0425 以降1回/月
4.事業委員会	0414 0512 以降1回/月
5.技術委員会	0422 以降1回/2ヵ月
6.広報委員会	0618 以降3回/年
7.脱炭素推進委員会	0409, 0522以降1回/月
8.耐震診断・補強判定委員会関西西部会	0527 以降随時
9.木造住宅レビュー委員会	0508 以降1回/月
10.構造レビュー委員会	随時
11.研究会	0521 定例研究会JSCA関西構造デザイン発表会2025、建設交流館(ウェビナー併用によるハイブリッド開催) 1月 新年研究会(ウェビナー併用によるハイブリッド開催)
12.現場見学会	2回/年 程度
13.研修会	1114～1115 滋賀方面で検討中
14.支部報	Structure Kansai No.165, 166, 167, 168発行予定
15.技術委員会各分科会(※下線付きは拡大分科会を示す。)	・地盤系分科会 0509 以降3回/年 程度 ・RC分科会 4回/年 程度 ・金属系分科会 4回/年 程度 ・情報システム分科会 4回/年 程度

・構造計画分科会	4回/年 程度			・大阪建築物震災対策推進協議会 限界耐力計算レビュー委託業務 随時
・耐震設計分科会	4回/年 程度			22.他団体への委員・講師の派遣 (新体制への移行に伴い担当者が変更することがあります)
・PC・工業化分科会	0513 以降3回/年 程度			委員派遣 (○印は兵庫会から選任)
・木構造分科会	4回/年 程度			・大阪市「大阪市耐震改修支援機構」 小倉正恒, 島野幸弘
・法制分科会	4回/年 程度			・京都市「京町家耐震診断レビュー委員会」 樫原健一, 田村佳英
・都市木造分科会	0408 以降3回/年 程度			・神戸市「建築物安全安心推進協議会」 加納万徳
・拡大分科会(技術委員会)	2回/年 程度			・日本建築総合試験所「建築構造性能評価委員会」 近藤一雄, 田代靖彦, 山浦晋弘
16.事務局会	0516 以降1回/月 程度			・日本建築総合試験所「既存建築物耐震診断等判定委員会」 嶋崎敦志
17.サテライト活動				・日本建築総合試験所「判定助言委員会」 秋田 智, 上森 博, 島野幸弘, 橋本宗明, 平石浩二, 西影武知
・奈良会	1回/年 程度			・日本建築総合試験所「コンクリート工実務研修委員会」 古島正博
・京滋会	1回/年 程度			・大阪府建築士会「専攻建築士審査評議会」 島野幸弘
※兵庫会は「他団体への委員・講師の派遣」で記載				・大阪府建築士会「CPDプログラム認定評議会」 横田友行
18.その他活動				・京都府建築士会「専攻建築士審査評議会」 中森康正
・JSCA関西U-45 Next Generation	0403, 0529 以降随時			・兵庫県建築士会「専攻建築士審査評議会」 ○山田正人
・JSCA関西U-45 Next Generation(全体企画)	7月, 1月			・大阪工業大学「専門委員会」 横田友行
・(仮称)2026年度JSCA構造デザイン発表会実行委員会	随時			講師派遣
・(仮称)大阪・関西万博関連施設オンライン講演会	随時			・大阪建築物震災対策推進協議会「被災建築物の応急危険度判定講習会」 笹元克紀
・支部賛助会員制度の試行に伴う企画	随時			・大阪府建築士会「既存木造住宅の耐震診断・改修講習会(限界耐力計算)」 小倉正恒, 山浦晋弘
19.講習会				・大阪府建築士会「既存木造住宅の耐震診断・改修講習会(一般診断法)」 石田健吾, 横田友行
・限界耐力計算による木造耐震設計法の実務講習会	0410, 0508, 0612, 以降偶数月開催(8月除く)			
・若手技術者育成講座(設計編および現場編) 2月末～3月初旬に開催予定				
20.親睦会				
・地盤系拡大分科会意見交換会	0509			
・定例研究会懇親会	0521			
・研修会懇親会	研修会初日に開催予定			
・賀詞交歓会	1月初旬に開催予定			
21.研究受託				

■2025年度 関西支部 体制

●幹 事

支 部 長	島 野 幸 弘	(竹中工務店)	:支部担当理事
副支部長	上 森 博	(日本設計)	
	橋 本 宗 明	(北條建築構造研究所)	
幹 事	秋 田 智	(安井建築設計事務所)	
	浅 野 康 弘	(昭和設計)	
	大 川 正 明	(鹿島建設)	
	小 倉 賢 人	(清水建設)	
	加 納 万 徳	(加納建築設計事務所)	
	嘉 村 武 浩	(日建設計)	:本部担当理事
	久 保 恒 治	(能勢建築構造研究所)	
	阪 井 由 尚	(大成建設)	
	佐 分 利 和 宏	(竹中工務店)	
	西 影 武 知	(大林組)	
	野 村 周 平	(日本建築総合試験所)	
	平 石 浩 二	(イオリ建築設計事務所)	
	福 本 義 之	(大林組)	
	松 村 健	(東畑建築事務所)	
	宮 崎 英 也	(山田建築構造事務所)	
	安 野 郷	(鴻池組)	
	吉 田 聡	(日建設計)	

監 査	小 倉 正 恒	(日本建築総合試験所)
	嶋 崎 敦 志	(嶋崎建築構造)

支部顧問	上 田 博 之	(竹中工務店)
	近 藤 一 雄	(遠藤克彦建築研究所)
	角 谷 彰	
	谷 尾 俊 彰	(イオリ建築設計事務所)
	辻 英 一	(安井建築設計事務所)
	八 木 貞 樹	(八木建築構造研究所)
	山 浦 晋 弘	(安井建築設計事務所)

本部担当理事	嘉 村 武 浩	(日建設計)
--------	---------	--------

事 務 局

事務局長	佐 分 利 和 宏	(竹中工務店)
事務局次長	野 村 周 平	(日本建築総合試験所)
事務 長	石 原 邦 子	(JSCA)
	河 井 翔 太 郎	(日建設計)
	田 中 嘉 一	(大林組)
	松 村 健	(東畑建築事務所)

●事業委員会

委 員 長	秋 田 智	(安井建築設計事務所)
副委員長	小 倉 賢 人	(清水建設)
委 員	上 森 博	(日本設計)
	岡 田 健	(日建設計)
	北 山 宏 貴	(大林組)
	熊 野 豪 人	(竹中工務店)

	阪 井 由 尚	(大成建設)
	野 村 建 太	(関西大学)
	弘 井 巖	(能勢建築構造研究所)

●技術委員会

委 員 長	西 影 武 知	(大林組)
副委員長	松 村 健	(東畑建築事務所) …情報システム
委 員	笹 元 克 紀	(大林組) …RC
	古 島 正 博	(大林組) …PC・工業化
	三 井 達 雄	(大林組) …金属系
	加 納 万 徳	(加納建築設計事務所) …耐震設計
	前 田 達 彦	(竹中工務店) …地盤系
	田 中 佑 樹	(日建設計) …構造計画
	野 村 毅	(能勢建築構造研究所) …法制
	石 田 健 吾	(ヤマダホームズ) …木構造
	須 賀 順 子	(竹中工務店) …都市木造

●広報委員会

委 員 長	平 石 浩 二	(イオリ建築設計事務所)
副委員長	金 田 興 熙	(K&S構造設計事務所)
委 員	伊 藤 栄 治	(安井建築設計事務所)
	慶 祐 一	(竹中工務店)
	大 川 正 明	(鹿島建設)
	河 井 翔 太 郎	(日建設計)
	阪 田 扶 佐 子	(山田建築構造事務所)
	軸 丸 久 司	(日建設計)
	田 代 靖 彦	(日建設計)
	橋 本 宗 明	(北條建築構造研究所)
	柳 澤 信 行	(竹中工務店)
	山 田 能 功	(大林組)
	吉 田 哲 也	(大林組)
	神 子 河 澄	(鴻池組)

●脱炭素推進委員会

委 員 長	前 川 元 伸	(竹中工務店)
副委員長	岡 田 健	(日建設計)
委 員	安 野 郷	(鴻池組)
	甲 谷 千 里	(日本建築総合試験所)
	尻 無 濱 千 尋	(日本建築総合試験所)
	柴 田 淳 平	(大林組)
	橋 本 宗 明	(北條建築構造研究所)
	松 村 健	(東畑建築事務所)

●木造住宅レビュー委員会

委 員 長	小 倉 正 恒	(日本建築総合試験所)
副委員長	山 浦 晋 弘	(安井建築設計事務所)
委 員	石 田 健 吾	(ヤマダホームズ)
	青 木 一 雄	(竹中工務店)
	樫 原 健 一	(SERB)
	北 山 宏 貴	(大林組)

	久 保 恒 治	(能勢建築構造研究所)
	甲 谷 千 里	(日本建築総合試験所)
	四 宮 忠 明	(兵庫県住宅建築総合センター)
	田 村 浩 史	(清水建設)
	田 村 佳 英	(悠計画研究所)
	島 羽 瀬 公 二	(島羽瀬社・寺建築)
	横 田 友 行	(能勢建築構造研究所)

●耐震診断委員会関西西部会/構造レビュー委員会

部 会 長	宮 崎 英 也	(山田建築構造事務所)
副部会長	田 代 靖 彦	(日建設計)
委 員	阿 波 野 昌 幸	(近畿大学)
	小 倉 正 恒	(日本建築総合試験所)
	日 下 哲	(日本建築総合試験所)
	嶋 崎 敦 志	(嶋崎建築構造)
	福 本 晃 治	(近畿大学)
	前 野 敏 元	(竹中工務店)
	山 浦 晋 弘	(安井建築設計事務所)
	横 田 友 行	(能勢建築構造研究所)

●危機管理委員会

委 員 長	嶋 崎 敦 志	(嶋崎建築構造)
副委員長	大 住 和 正	(大林組)
委 員	小 倉 正 恒	(日本建築総合試験所)

●編集委員会関西西部会

部 会 長	福 本 義 之	(大林組)
副部会長	大 堀 太 志	(竹中工務店)
委 員	秋 田 智	(安井建築設計事務所)
	岩 井 昭 夫	(大成建設)
	軸 丸 久 司	(日建設計)
	宮 久 保 秀 樹	(鴻池組)

●定期講習WG

W G 長	白 沢 吉 衛	(日建設計)
委 員	嶋 崎 敦 志	(嶋崎建築構造)
	大 堀 太 志	(竹中工務店)

●国際委員会(本部)

	嶋 崎 敦 志	(嶋崎建築構造)
--	---------	----------

●「(仮称)2026年度JSCA構造デザイン発表会実行委員会」

委 員 長	安 野 郷	(鴻池組)
副委員長	吉 田 聡	(日建設計)
委 員	浅 野 康 弘	(昭和設計)
	九 嶋 壮 一 郎	(竹中工務店)
	正 野 和 司	(安井建築設計事務所)
	中 嶋 拓	(大林組)
	山 下 真 輝	(北條建築構造研究所)

2024年度決算報告書 (自:2024年4月1日 至:2025年3月31日)

一般会計

(単位:円)

勘定科目		予算	実績	備考		
事業収入	調査研究金費収入	3,185,000	3,139,850			
	研究金費収入	3,185,000	3,139,850			
	研究会会費収入	2,465,000	2,411,650	近衛デザイン研究会(発表会、研究会費)、拡大分科会(研究会費)、北海道連合会費、本会への会費、研修会会費、若手連合会費		
	記念行事収入	700,000	728,200	臨時・臨時大会費30年企画		
	その他の収入	1,400,100	1,752,696			
その他の収入	懇談会費収入	1,400,000	1,741,500	懇談会参加費(5/16,1/9)、拡大分科会(RC+PC、都市本道意見交換会)		
	雑収入	100	11,196			
	利息収入	100	11,196			
	雑収入	0	0			
	特別会計繰入金収入	500,000	300,000			
	支部受入収入	450,000	450,000			
	本部交付金収入	4,185,000	4,185,000	本部からの交付金		
	事業活動収入合計(A)	9,700,100	9,827,346			
	事業費	調査研究事業費	6,312,500	4,874,587		
		調査研究事業費	5,232,500	3,815,827		
委員会費		460,000	317,638			
研究会費		3,472,500	2,394,138	近衛(デザイン発表会)、新年研究会、サテライト活動、研修会、見学会、若手連合、北海道連合会、本道アキス代		
記念行事費		1,300,000	1,194,053	臨時・臨時大会費30年企画		
会誌発行費		1,050,000	999,600	会誌発行費		
渉外費		30,000	82,160	会誌発行費		
渉外費		10,000	33,000			
渉外費		20,000	29,160	第16回団体午餐会参加費等		
管理費		5,610,000	5,815,726			
人件費		240,000	297,000			
事務用品費		1,700,000	1,670,605			
通信事務費		250,000	517,351	一般計として総額の90%、PC・PDF・社会・事務用品費		
事務機器費		1,200,000	971,804	一般計として総額の90%、電話代、Zoom、インターネット接続関係等		
租税公課		0	0	一般計として総額の90%、機器・PC・代		
会費	旅費交通費	30,000	0			
	雑費	160,000	136,900	印刷・コピー(一般計90%)、旅送手数料等		
	会議費	1,270,000	1,459,081			
	総会費	60,000	63,990			
	運営会議費	10,000	0			
	懇談会費	1,200,000	1,395,091	懇談会参加費(5/16,1/9)、拡大分科会(RC+PC、都市本道意見交換会)		
	施設費	2,400,000	2,389,940			
	光熱費	300,000	178,152	一般計として総額の90%		
	支部賃借料	2,100,000	2,216,858	一般計として総額の90%		
	事業活動支出合計(B)	11,922,500	10,690,313			
事業活動収支差額(C)=(A)-(B)		△ 2,222,400	△ 862,967			
投資活動収入	特定預金取崩収入	900,000	890,270			
	災害対策費等預立預金	0	0			
	事務所整備等預立預金	300,000	424,217			
	記念行事費等預立預金	600,000	466,053			
	投資活動支出(E)	0	6,767			
	特定預金積立支出	0	6,767			
投資活動収支差額(F)=(D)-(E)	災害対策費等預立預金	0	0			
	事務所整備等預立預金	0	6,767			
	記念行事費等預立預金	0	0			
	投資活動収支差額(F)=(D)-(E)	900,000	883,503			
	予備費(G)		0	0		
	当期収支差額(H)=(C)+(F)-(G)		△ 1,322,400	20,536		
前期繰越収支差額(I)		9,992,111	10,351,317	流動資産-流動負債		
次期繰越収支差額(H)+(I)		8,669,711	10,371,853			
通帳残高との照合						
A 繰越金		次期繰越収支差額	10,371,853			
B 前払費用(前年度)			204,710			
通帳残高		A-B+C	10,167,143	一残高証明との一致を確認		
特定預金の期中増減-通帳残高との照合						
種類		前期末残高	増加(積立・収入)	減少(取崩・支出)	当期末残高	当期末通帳残高
災害対策費等預立預金		7,100,000	0	0	7,100,000	
事務所整備等預立預金		2,742,038	6,767	424,217	2,324,588	12,455,118
記念行事費等預立預金		3,496,383	0	466,053	3,030,330	
合計		13,338,621	6,767	890,270	12,455,118	12,455,118

2025年度予算書 (自:2025年4月1日 至:2026年3月31日)

一般会計

(単位:円)

勘定科目	2024年度予算	2025年度予算	備考
事業収入	3,185,000	1,720,000	
調査研究金費収入	3,185,000	1,720,000	
研究金費収入	2,465,000	1,720,000	共同デザイン研究会、見学会、講演会、研究会費等の会費収入
記念行事収入	700,000	0	記念行事等継続費等参加費収入
その他の収入	1,400,100	1,351,000	
懇談会費収入	1,400,000	1,350,000	懇談会参加費(5/16.1/9)、拡大分科会(PC+RC)、都市本道意見交換会
広告収入	0	0	
雑収入	100	1,000	
利息収入	100	1,000	銀行等の利子収入
雑収入	0	0	
特別会計繰入金収入	500,000	0	特別会計からの繰入金
本部交付金収入	4,850,000	4,823,000	本部からの交付金(450,000→417,000)
本部収入	4,850,000	0	本部・統支部からの受入金
事業活動収入合計(A)	9,700,100	7,694,000	
事業費	6,312,500	4,200,000	
調査研究事業費	5,232,500	3,110,000	
委員会費	460,000	580,000	共同デザイン研究会、若手連合会、サテライト活動、研修会、見学会、若手連合、北海道連合会、本会への会費、北海道連合会費、若手連合会費
研究会費	3,472,500	2,530,000	共同デザイン研究会(発表会)、青年研究会、サテライト活動、研修会、見学会、若手連合、北海道連合会、本会への会費、北海道連合会費、若手連合会費
記念行事費	1,300,000	0	記念行事等継続費
会誌発行費	1,050,000	1,050,000	会誌発行費
会誌発行費	30,000	40,000	会誌発行費
渉外費	10,000	10,000	渉外費
渉外費	20,000	30,000	第16回団体午餐会参加費等
管理費	5,610,000	5,270,000	
人件費	240,000	0	印刷・コピー・旅送手数料等
事務用品費	1,700,000	1,820,000	
印刷製本費	60,000	60,000	PC・PDF・社会・事務用品費
通信事務費	250,000	370,000	電報代等(一般計として総額の約95%)
事務機器費	1,200,000	1,200,000	事務機器として、PC・プリンター・カメラ・ビデオカメラ・一般計として総額の約95%
旅費交通費	30,000	30,000	
租税公課	0	0	
雑費	160,000	160,000	印刷・コピー・一般計として総額の約95%
会議費	1,270,000	1,350,000	
総会費	60,000	40,000	
運営会議費	10,000	10,000	幹事会
懇談会費	1,200,000	1,300,000	懇談会参加費、青年会会費
施設費	2,400,000	2,100,000	
光熱費	300,000	200,000	一般計として総額の約95%
支部賃借料	2,100,000	1,900,000	一般計として総額の約95%
事業活動支出合計(B)	11,922,500	9,470,000	
事業活動収支差額(C)=(A)-(B)	△ 2,222,400	△ 1,776,000	
投資活動収入(D)	900,000	0	
特定預金取崩収入	900,000	0	
災害対策費等預立預金	0	0	
事務所整備等預立預金	300,000	0	
記念行事費等預立預金	600,000	0	
投資活動支出(E)	0	0	
特定預金積立支出	0	0	
災害対策費等預立預金	0	0	
事務所整備等預立預金	0	0	
記念行事費等預立預金	0	0	
災害対策費等預立預金	0	0	
投資活動収支差額(F)=(D)-(E)	900,000	0	
予備費(G)	0	0	
当期収支差額(H)=(C)+(F)-(G)	△ 1,322,400	△ 1,776,000	
前期繰越収支差額(I)	10,391,317	9,068,917	
次期繰越収支差額(H)+(I)	9,068,917	7,292,917	

2024年度決算報告書 (自:2024年4月1日 至:2025年3月31日)

特別会計

(単位:円)

勘定科目	予算	実績	備考
事業収入	1,070,000	2,761,000	
構造レビュー等事業収入	800,000	2,662,000	構造レビュー、本道レビュー
研究受託等収入	0	99,000	本道レビュー受託
講習会等収入	270,000	0	
その他の収入	500	10,029	
受取利息	500	10,029	
雑収入	0	0	
一般会計繰入金収入	0	0	
本部からの受入収入	1,200,000	1,360,000	調査診断・補修判定費
事業活動収入合計(A)	2,270,500	4,131,029	
事業費	1,310,000	3,130,725	
構造レビュー等事業費	1,200,000	3,048,725	
人件費	0	0	
事務費	50,000	19,116	会議費
レビュー費	1,150,000	3,030,609	構造レビュー(2,17%, 990、調査診断・補修判定費4,000,000、委員会費1172,609)
委託費	0	0	
研究受託等事業費	110,000	81,000	
人件費	0	0	
事務費	10,000	0	
委託費	100,000	81,000	
講習会等事業費	0	0	
人件費	0	0	
事務費	0	0	
委託費	0	0	
管理費	820,000	557,349	
人件費	0	33,000	
事務費	500,000	258,900	事務費、通信費、事務機器費等(一般計・特別会計=90%:10%)
消耗品費	10,000	4,949	特別会計として総額の10%
通信事務費	80,000	57,483	特別会計として総額の10%
事務機器費	280,000	107,378	特別会計として総額の10%
租税公課	80,000	58,900	法人税等負担金
雑費	70,000	29,590	特別会計として総額の10%
施設費	320,000	265,449	特別会計として総額の10%、施設費・資料(324,653)、光熱費(119,798)、等
対本部支出	240,000	138,050	構造レビュー等及び支那契約の本部受取分(受託額約5%)
一般会計繰入金支出	500,000	300,000	
事業活動支出合計(B)	2,870,000	4,126,124	
事業活動収支差額(C)=(A)-(B)	△ 599,500	4,905	
予備費(D)	0	0	
当期収支差額(E)=(C)-(D)	△ 599,500	4,905	
前期繰越収支差額(F)	21,030,530	21,245,760	
次期繰越収支差額(E)+(F)	20,431,030	21,250,665	

通帳残高との照合

A 繰越金	次期繰越収支差額	21,250,665
C 未収入金	前年度収支差額	960,000
D 未払金	前年度収支差額	0
通帳残高	A-B-C+D	20,290,665

一残高証明と一致を確認

2025年度予算書 (自:2025年4月1日 至:2026年3月31日)

特別会計

(単位:円)

勘定科目	2024年度予算	2025年度予算	備考
事業収入	1,070,000	1,903,000	
構造レビュー等事業収入	800,000	1,600,000	構造レビュー、本道レビュー
研究受託等収入	0	33,000	
講習会等収入	270,000	270,000	
その他の収入	500	4,000	
受取利息	500	4,000	
雑収入	0	0	
一般会計繰入金収入	0	0	
本部からの受入収入	1,200,000	800,000	本部からの受入金・前年度判定支那受取分
事業活動収入合計(A)	2,270,500	2,707,000	
事業費	1,310,000	2,157,000	
構造レビュー等事業費	1,200,000	2,020,000	
人件費	0	0	
事務費	50,000	20,000	バー部会会議費、資料発送費等
レビュー費	1,150,000	2,000,000	調査診断・補修判定費、本道レビュー
委託費	0	0	
研究受託等事業費	0	27,000	
人件費	0	0	
事務費	0	0	
委託費	0	27,000	
講習会等事業費	110,000	110,000	
人件費	0	0	
事務費	10,000	10,000	
委託費	100,000	100,000	
管理費	820,000	1,010,000	
人件費	0	0	
事務費	500,000	410,000	特別会計として総額の約15%(租税公課除く)
消耗品費	10,000	10,000	特別会計として総額の約15%
通信事務費	80,000	80,000	特別会計として総額の約15%
事務機器費	280,000	280,000	特別会計として総額の約15%
租税公課	80,000	20,000	本部収益の調査支那交付金
雑費	70,000	40,000	特別会計として総額の約15%
施設費	320,000	600,000	特別会計として総額の約15%、施設費・資料、光熱費
対本部支出	240,000	240,000	「セミナール」等本部受取分・本部事務経費(構造レビュー等及び支那実施調査研究(支那契約)の本部受取分(受託額約5%))
一般会計繰入金支出	500,000	0	
事業活動支出合計(B)	2,870,000	3,407,000	
事業活動収支差額(C)=(A)-(B)	△ 599,500	△ 700,000	
予備費支出(D)	0	0	
当期収支差額(E)=(C)-(D)	△ 599,500	△ 700,000	
前期繰越収支差額(F)	21,019,030	20,419,530	
次期繰越収支差額(E)+(F)	20,419,530	19,719,530	

●事務局だより

- 1.支部総会**
0521 建設交流館ZOOM会議併用
- 2.支部幹事会**
0425(18:15～19:45)
ZOOM関西事務局
場所: 柴田東急ビル4階JSCA関西事務局
- 3.運営会議**
0425(18:00～20:00)ZOOM会議併用
場所: 柴田東急ビル4階JSCA関西事務局
0529(18:00～20:00)
ZOOM会議併用
場所: 柴田東急ビル4階JSCA関西事務局
0626(予定18:00～20:00)
ZOOM会議併用
場所: 柴田東急ビル4階JSCA関西事務局
- 4.事業委員会**
0414(18:00～18:30)ZOOM会議併用
場所: 柴田東急ビル4階JSCA関西事務局
内容: 研修会について
0512(18:00～19:00)ZOOM会議併用
場所: 柴田東急ビル4階JSCA関西事務局
内容: 現場見学会、研修会について
0609(予定18:00～19:00)
ZOOM会議併用
場所: 柴田東急ビル4階JSCA関西事務局
内容: 現場見学会、研修会について
- 5.技術委員会**
0422(18:00～20:00)ZOOM会議併用
場所: 柴田東急ビル4階JSCA関西事務局
内容: 各分科会活動、本部技術委員会報告
0624(予定18:00～20:00)
ZOOM会議併用
場所: 柴田東急ビル4階JSCA関西事務局
内容: 各分科会活動、本部技術委員会報告
- 6.広報委員会**
0618(予定18:00～19:00)
ZOOM会議併用
場所: 柴田東急ビル4階JSCA関西事務局
内容: 1. Structure Kansai No. 167号
編集会議
2. Structure Kansai No. 168号
企画会議
- 7.脱炭素推進委員会**
0409(18:00～19:30) 第10回
場所: 柴田東急ビル4階JSCA関西事務局
内容: 2025年度活動予定について、
情報共有
0522(18:00～19:30) 第11回
場所: 柴田東急ビル4階JSCA関西事務局
内容: 第2回脱炭素推進委員会企画の
準備、情報共有
0625(予定10:00～19:30) 第12回
場所: 未定
内容: 未定
- 8.耐震診断・補強判定委員会関西部会**
0527(18:00～20:00) 第127回
場所: 柴田東急ビル4階JSCA関西事務局

- 内容: 耐震診断・補強計画判定の報告
0617(予定18:00～20:00) 第128回
場所: 柴田東急ビル4階JSCA関西事務局
内容: 耐震診断・補強計画判定の報告
- 9.木造住宅レビュー委員会**
0508(17:45～)
場所: 柴田東急ビル4階JSCA関西事務局
内容: 未定
6月未定
場所: 未定
内容: 未定
- 10.構造レビュー委員会**
開催予定なし
- 11.研究会・記念事業**
0521JSCA関西支部デザイン発表会
場所: 建設交流館
- 12.現場見学会**
開催なし
- 13.研修会**
開催なし
- 14.支部報**
Structure Kansai No.165(2025.04)
発行
- 15.技術委員会各分科会**
○**地盤系分科会**
0509(15:00～17:00)
場所: 大林組日生淀屋橋ビル4階講堂
(zoomウェビナー併用)
内容: 既存地下構造再利用について考える
- RC分科会**
0528(18:00～19:30)
場所: 大林組会議室
- 金属系分科会**
開催なし
- 情報システム分科会**
0619(予定18:00～)
場所: 柴田東急ビル4階JSCA関西事務局
内容: 未定
- 構造計画分科会**
開催なし
- 耐震設計分科会**
開催なし
- PC・工業化分科会**
0513(18:00～19:00)
場所: 大林組会議室 (teams会議併用)
内容: 設計事例紹介
- 木構造分科会**
0415(18:00～19:45)
場所: SERB会議室
内容: Y邸耐震改修設計施工事例について
- 法制分科会**
0514(18:00～19:30)
ZOOM会議併用
場所: 能勢建築構造研究所10階会議室
- 都市木造分科会**
0408(16:00～17:30)
場所: JSCA関西事務局

内容: 今年度の活動について・
改修プロジェクト紹介
※下線付きは拡大分科会を示す。

16.サテライト活動

- ・奈良会
開催なし
- ・京滋会
開催なし
- ・兵庫会
開催なし

17.講習会

- 0410(13:15～17:30)
限界耐力計算による木造耐震設計法の実務講習会 参加者16名
場所: 柴田東急ビル4階JSCA関西事務局
0508(13:15～17:30)
限界耐力計算による木造耐震設計法の実務講習会
場所: 柴田東急ビル4階JSCA関西事務局
0612(予定13:15～17:30)
限界耐力計算による木造耐震設計法の実務講習会
場所: 柴田東急ビル4階JSCA関西事務局

18.その他活動

- ・U-45 Next Generation
04030(18:30～20:00)
場所: T'sイノベーションサロン
(竹中工務店B1F会議室)
0529(18:30～20:00)

18.親睦会

- 0521総会後懇親会
場所: 建設交流館
0509地盤系拡大分科会意見交換会

19.関連団体との交流

なし

●編集後記

ご多忙の中、ご執筆にご協力いただきました皆様に厚く御礼を申し上げます。今年は4月1日に建築基準法が一部改正・施工され、確認・検査対象となる建築物の規模の見直しや省エネ法の改正に伴う木造建築物の壁量規準等の見直しなど、構造設計に係わる改正も含まれており、構造設計者に求められる役割についてもこれまで以上に重要となってくると思います。JSCA会員の皆様におかれましてはより一層のご活躍をお祈りいたします。(田代、金田)

発行 (一社)日本建築構造技術者協会
関西支部事務局
(下記に移転致しました)
〒550-0005
大阪市西区西本町1-7-8 柴田東急ビル402
Tel 06-4394-8433 Fax 06-4394-7566
Mail jscaweb@kansai.email.ne.jp
URL <http://jscakansai.com/>